

令和4年度第1回岩手県地域公共交通活性化協議会県南地域別部会 議事要旨

1 日時

令和5年2月8日（水） 13：30～15：00

2 場所

奥州市（奥州地区合同庁舎 2階第2会議室）

3 主な議事内容

- (1) 地域公共交通活性化再生法と地域公共交通計画について
- (2) 岩手県地域公共交通網形成計画の施策評価について
- (3) 次期地域公共交通計画の策定の方向性について
- (4) 今後の進め方について
- (5) その他

4 主な御意見等

(2) 岩手県地域公共交通網形成計画の施策評価について

- ・ 計画の目標値については、県独自の指標なのか、市町村計画の目標値を加味した数値なのか。

⇒ 一部の指標については、上位計画であるいわて県民計画の目標値を参照している。

また、計画策定時に、岩手県地域公共交通活性化協議会や地域別部会で議論を重ねて目標値を定めたものであり、市町村計画との整合性を図っている。（事務局）

(3) 次期地域公共交通計画の策定の方向性について

(4) 今後の進め方について

- ・ 令和5年度に県計画と同時並行で計画を策定する市町村もいるが、どのように整合性を図っていくのか。

⇒ 現行計画の策定時も、県と市町村とで連絡を密に取って進めてきたところであり、現在開催している地域別部会に加え、バス路線活性化検討会や市町村の個別ヒアリングなどを通じて、路線ごとの個別課題の把握・共有しながら進めていく。（事務局）

(5) その他

- ・ バスの路線維持に現在の支援で十分か、検討が必要。
 - ⇒ バスの路線維持に必要な支援については、地域内公共交通構築検討会等で引き続き議論していきたい。(事務局)

- ・ 補助上限額を超えた運行欠損額は事業者負担となる。県内に公共交通を担う事業者が少なくなっていく中で、事業者をなくさない目標を具体的に次期計画に反映できないか。
 - ⇒ 事業者をなくさないという視点について、どういった形で指標等に挙げられるか、検討していきたい。(事務局)

- ・ 人流ビッグデータの活用だけでなく、車社会を前提とした街づくりの中で、公共交通を使わなければならない流れを視点に取り入れながら進めるべき。マイカーに勝てる乗り物はない。バスを利用しないと環境など利便性とは異なる面でマイナスが出るということを、モビリティマネジメント強化の観点から取り入れる必要があるのではないか。
 - ⇒ GXの視点から、モビリティマネジメントの強化について検討していきたい。(事務局)

- ・ 新型コロナウイルス感染症がどのように収束するのか見通せない状況においての指標の設定が難しいと感じている。指標について、社会情勢にあわせて、計画期間の途中で指標を見直す、柔軟な計画にできないか。
 - ⇒ 必要に応じて検討していきたい。(事務局)